

## 失敗をしよう、失敗をして成長の糧としよう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. この時期になると、各高校は東京大学に何名受かったかということに非常に注目します。ただ、何のために東京大学に行くのかということも大事ではないかと思います。日本の教育に今一番欠けていることは、正にそこです。東京大学に〇名受かったということは確かに素晴らしいですが、高校生に何のために東京大学に行くのかということを高校時代に教えたかということが大事になると思います。なぜこのようなことを言うのかといいますと、私の知り合いにも東京大学を卒業した方が随分といらっしゃいますが、東京大学に入学したあとに東京大学とはどんな大学か、具体的にはエリートの大学と言われますが、エリートとは何かということを経験で誰も教わったことがないということだからです。これはゆゆしき問題ですね。
3. では、何処で教わったらよいのでしょうか。私は、東京大学に進学を希望する方は、その時点で何のために東京大学に行くのかを考えながら勉強したほうがよいと思います。また、高等学校の先生方も、学習塾もそうかもしれませんが、東京大学に行って何をするのかということを中心に突き詰めて考えてから行くようにと高校生に話していただきたいと思います。そうしないと、受かりさえすればよいということになってしまい、東京大学に入学してから自分を見失ってしまうことがあります。ですから、何のために東京大学に行くのかを考えた上で入学試験に臨み、受かった方はそれなりの覚悟を持って勉強していただきたいと思います。全国の大学の中で予算が一番使っているのが東京大学ですので、国民の税金を無駄に使わないようによろしくお願いします。
4. さて、先週の土曜日、3月15日に経済同友会という団体が主催する教育フォーラムが東京で開かれました。そのフォーラムで、帝人という会社の社長と会長をされた長島徹さんが素晴らしいお話をされましたので、今日はその内容を紹介させていただきます。お話のテーマは、「失敗をしよう、失敗をして成長の糧としよう」でした。長島さんは、これからは仕事も私生活もグローバル化の時代ですので、内弁慶にならないで外に出ようということを非常に強調していらっしゃいました。そのときに英語の力はいるのかということ、英語の力は中学校で習うレベルで十分に通用するということでした。ただし、英会話の勉強はしないと大変ですので、中学校で習ったレベルをもう一度勉強し直し、英会話の練習をする。そして、できれば英語の教科書を丸暗記して、覚えた分の書く練習をすると素晴らしい力がつくと言っていました。この番組でも同じようなことを随分とお話させていただいていますが、長島さんもそのようなことを教えてくださいました。

5. それから、日本は1990年代からデフレの時代になってしまったので、失われた20年と言いますか、日本人は内弁慶になってしまった。その一つの表れとして、留学をする日本人がすごく少なくなりました。できればそこから脱却して留学し、他の国のことをもっともっと知ってはどうかという御提案がありました。留学先としてはどこがよいのかというと、いろいろな国がありますが、長島さんはアメリカに留学なさったそうです。アメリカは、新しいことに挑戦することを非常に奨励するというか、評価する国だそうです。アメリカには新しいことを起こす力があるので、留学先にするのも一つの選択肢だよと教えてくださいました。
6. さらに、外に出るためにはコミュニケーション力をつけることが必要だ。そのためには、人と人の繋がりを持つことが大事であるとおっしゃっていました。小さい頃から保育園や幼稚園に行き、小学校・中学校・高校・大学などを出て社会人になるわけですが、その間に縦の繋がり、つまり先生方・先輩・後輩との繋がりを持つのもよいですが、できれば横の繋がり、つまり友達や同僚の繋がりを持ち、友達同士・同僚同士で友情を育むことが大事であること、特にクラブ活動は仲間の素晴らしさを認識できるのでとても大事だということを教えてくださいました。
7. コミュニケーションのために大事なことの一つは、思いやりの心を持つことです。人と人が信じ合える、これは日本人特有の遺伝子ですので、この素晴らしい遺伝子を生かしていただき、まずは笑顔の挨拶から始める。ただ、それだけだと相手に通じませんので、遠慮せずに発言する。間違ってもよいから自分の意見を持った上で、私はこのようなことを考えているのだということをいろいろな方に発信する。そして、言った通りの行動をする。すると、たとえ失敗しても、それを見て皆さんが信頼してくれるということだと思います。つまり、一番大事なことは、間違ってもよいから自分の意見を持った上で発信し、言ったことをそのまま行動して信頼を得る。間違った場合は反省して、違う行動に出ることだと思います。
8. また、自分の意見を遠慮なく発言する一方で相手の話もよく聞く、よく聞いた上で質問する、これが大事だということをおっしゃっていました。「聞く」を英語で言うと、hear、listen、askの3つがあります。hearは音声として聞く状態、listenは心を込めてしっかりと聞く状態、askは聞いたことの中でわからないなと思ったことを聞いたことを踏まえて聞き返す状態のことです。長島さんは、これらがコミュニケーションの基本だということを教えてくださいました。
9. 外に出て、何回も失敗をしてもいいわけですよ。失敗したらそれを踏まえて反省し、またチャレンジする。それが大事ではないかと思います。自分で考え、自分で解決する。自分自身を確立して、自立の精神とチャレンジ精神で英語で会話をする。英語でのコミュニケーションで一番大事なものは、自分の英語が下手だと思わないで、身振り手振りでもかまいませんから、また、失敗をしながらでもいいですから、とにかく会話をして友達をつくったり、未来を切り開くことです。これらのことを長島さんは教えてくださいました。
10. 今日は、帝人株式会社の元社長で、今は相談役の長島徹さんから「失敗をしよう、失敗をして成長の糧にしよう」というお話をお聞きしましたので、紹介させていただきました。皆様はどのようにお考えでしょうか。